

“目で生きる人”の オンガク ワークショップ 音楽って、いったい何だろう？

手話や身体から生まれる響きも音楽の一つです。目で生きる人だからこそできる強みを、みんなと一緒に創り上げていけることが楽しみでワクワクしています。(牧原)

頭や心のなかでうかんできた動く絵を身体で表してみよう。手だけでもいいです。音に頼らないで、手、腕、身体などで奏でてみよう。目で生きる人の世界を広げてみよう。(豊境)

東京芸術劇場での 月2回のワークショップ 参加者募集 [参加費無料]

ご指導・コーディネートして下さる方

牧原依里(まきはら えり) <映画作家/ 聾の鳥プロダクション>

豊境(ただけい) <舞踏家>

対象

きこえない・きこえにくい、

または聴者で手話のできる6~18歳の子ども

実施日

オープニング 8月30日(日) 午前9:30~11:30

以降は、月2回程度、日曜日の午後2:00~4:00を開催日とします。

※ 9/13, 9/20, 10/4, 10/18(午前) … 決まり次第、ご案内します。

会場

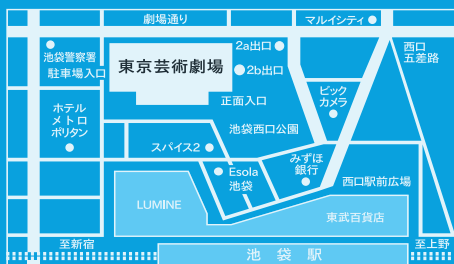
東京芸術劇場

豊島区西池袋 1-8-1
TEL.03-5391-2111

<アクセス>

JR・東京メトロ・
東武東上線・西武池袋線
池袋駅西口より徒歩2分。
駅地下通路2b出口と
直結しています。

お二人からの
メッセージ



・ワークショップで必要なやりとりは、手話や文字・絵などで行います。また身体的接触はありません。
・新型コロナウイルス感染拡大には細心の注意を払い、感染症対策を講じた上で実施いたします。
具体的な感染防止策は、申し込み時にご案内いたします。
・やむなく開催延期が生じる場合には、申し込みいただいた方へのご連絡をいたします(日曜日の実施予定に変わりはありません)。エル・システムジャパン「東京ホワイトハンドコーラス」のHPにおきましても最新の案内を出してまいります。

お申込先

下記までお問合せ、お申込みください。

一般社団法人
エル・システムジャパン

mail: whc@elsistemajapan.org

tel: 03-6811-7077

fax: 03-6811-7078

メールでのお申し込みの場合は、件名に
「ワークショップ応募」とご記入の上、

①お子様のお名前、②学校名・学年、
③保護者様の連絡先、④きょうだい参加の有無、
をお知らせください。

(多数応募の場合、締め切らせていただく場合がございます。)

お申し込みは
こちら!



“目で生きる人”の オンガク ワークショップ 音楽って、いったい何だろう？

音楽という言葉から、何をイメージしますか。従来の音楽に対して、少し距離を感じて来られた聾の方、難聴の方も多かもしれません。音楽は「音」以前に、心の動きを大事にした、身体の中から外へ現れ出る芸術でありたい。そこで、聴者の音楽ありきではなく、手話や身体をベースにした視覚的な音楽を探っていきたいと思います。さまざまな動きや表現方法があることを学びながら、心地よい表現をみつけて、音のない曲を生み出していくようなワークショップです。子ども向けですが、これまであまり取り組む機会のなかった、目で生きる人を主体とした新しい芸術活動の試みになります。内なる音楽を追求してきた聾者のアーティストをお迎えしての楽しいワークショップ。どうぞご参加ください。

まきはら えり

牧原依里 映画作家・聾の鳥プロダクション代表

ろう者。小学2年までろう学校に通い、小学3年から地元の学校に通う。ろう者の「音楽」をテーマにしたアート・ドキュメンタリー映画『LISTEN リッスン』(2016)を雫境(DAKEI)と共同監督。映画制作、配給などを行う他、2017年には東京国際ろう映画祭を立ち上げ、ろう・難聴当事者の人材育成を行っている。既存の映画が聴者による「聴文化」における受容を前提としていることから、ろう者当事者としての「ろう文化」の視点から問い返す映画表現を実践。

だけい

雫境 聾の舞踏家

1996年～2001年日本ろう者劇団に在籍。1997年舞踏家・鶴山欣也(舞踏工房若衆・主宰)の誘いを受け、舞踏を始める。国内のみならず欧米、南米を舞台に活動。2000年にユニット・グループ「雫」を旗揚げ。国内、イタリア、スペイン、ペルー、韓国、フランス、アメリカで公演、ワークショップを行っている。2013年、アニエス・トゥルブレ(アニエスパー)監督の映画『わたしの名前は...』に出演。2016年、牧原依里と共同監督として映画『LISTEN リッスン』を製作。2018年、NAPPOS PRODECE「斜面」(作・演出／小野寺修二)カンパニーデラシネラ「ドン・キホーテ」(演出／小野寺修二)に出演。2019年より「濃淡(NOUTAN)」を新たに旗揚げ。2020年、Eテレ「みんなの手話」で「しゅわっとダンス」を振付、出演。2000年東京藝術大学大学院博士課程修了。

東京芸術劇場

東京芸術劇場は、世界最大級のパイプオルガンを有するコンサートホールのほか、演劇・舞踊等のための3つのホール、4つの展示スペースを備え、展示や講座、ワークショップ等、上演以外の芸術活動も行うことができる複合的な芸術文化施設です。芸術文化の創造発信事業のほか、人材育成・教育普及、福祉、社会包摂事業にも力を入れており、2008年にグスターボ・ドゥダメル率いるシモン・ポリバル響の初来日公演を開催して以降、13年、15年、17年、18年と継続的にエル・システマ・フェスティバルを開催しています。フェスティバルでは、コンサートのほか、シンポジウムやワークショップを通じ、エル・システマの活動や理念を広く紹介しています。

Web: www.geigeki.jp

Facebook: @geigeki

Twitter: @geigeki_info



Tokyo
Metropolitan
Theatre

エル・システマジャパン

エル・システマは、1975年、貧困や治安の悪化という問題を抱えていた南米ベネズエラで、子どもたちを守るために始まった音楽教育プログラム。現在では、70以上の国・地域でエル・システマの理念に基づいた音楽教育が実施されています。日本では、東日本大震災をきっかけに、2012年よりエル・システマジャパンとして、福島県相馬市で活動を開始しました。その後、岩手県大槌町、長野県駒ヶ根、そして東京へと展開しています。大切にしているのは、家庭の事情や障害の有無にかかわらず、どんな子どもも音楽に触れられ、仲間と共に学び、表現していくこと。子どもたちが活動を通して自信や尊厳を持ち、人生を切り開く力を育てていくこと、そしてその“音楽”によって人と人がつながっていくことを目指しています。

Web: www.elsistemajapan.org

Facebook: @elsistemajapan

Twitter: @EISistemaJapan



エル・システマジャパンは、希望するすべての子どもたちに集団での音楽活動を無償で提供する活動を行なっています。人生を切り開く「生きる力」と、子どもたちを中心にコミュニティを育てていくことを目的とし、子どもオーケストラや子どもコーラス活動などを行ってきました。

「東京ホワイトハンドコーラス」理念と活動の方向

25年前、南米ベネズエラのエル・システマで始まった特別支援プログラムのコーラス・楽団は、白い手袋をして手の動きを美しく表現をするメンバーに特色があり、広義に“ホワイトハンドコーラス”と呼ばれました。「東京ホワイトハンドコーラス」は、2017年に現在のサイン隊からスタートし、翌年には歌を歌う声隊も誕生しました。サイン隊は、手話を元に歌詞の世界を表現し、一定の評価をいただいています。昨年はNHK2020応援ソング『パプリカ』の手歌バージョンを依頼され、東京芸術劇場にて収録されました。一方、活動を進めるにあたり、きこえない人を聴者の音楽に誘うだけでなく、もっと聴者がきこえない人へ近づいていく方向もありうることに気づかされていきました。今年も、当事者である子どもたちの表現力をさらに引き出していく取り組みを行ってまいります。

主催：一般社団法人エル・システマジャパン

共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

協力：社会福祉法人トット基金

協賛：キッコーマン株式会社、リコー社会貢献クラブ・FreeWill

助成：Water Dragon Foundation